

令和3年度実施

歩行者移動支援プロジェクト
実証教育プログラム
報告

山形県立酒田光陵高等学校
ビジネス流通科
教諭 加藤吉絵

実施データ

- 日 時 令和3年10月26日（火） 3コマ（2～4校時）
10月29日（金） 5コマ（2～6校時）
1コマ50分
- 講 師 株式会社NTTデータ経営研究所 担当者2名
日本筋ジストロフィー協会 山形支部長
- 生徒 ビジネス流通科(商業科) 2年次(34名)
- 実施授業 商品開発 マーケティング

授業実施前に

- NTT経営データ研究所の担当の方2名とオンラインによる打ち合わせを実施。日本筋ジストロフィー協会山形支部長を含めた打ち合わせは2回実施。
- 調査ルートの協議 『どのような車いす利用者、どのような目的で移動をするか』『グループ分け・引率者』
- 学校として準備すべきモノ、コト ➡ 授業交換、調査先への依頼及び確認、使用教室の確保、車いすの準備

実施の様子 . . . 事前研修



実施の様子 . . . 当日の事前確認



実施の様子・・・当日の事前確認



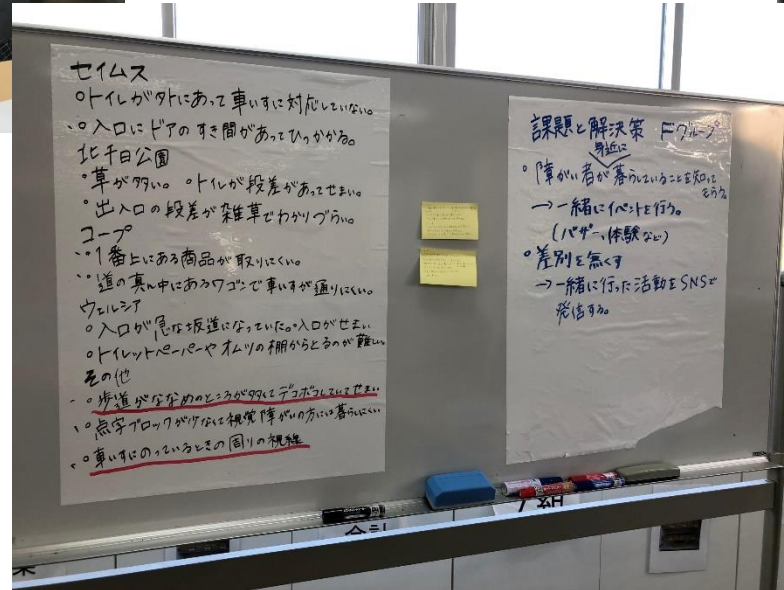
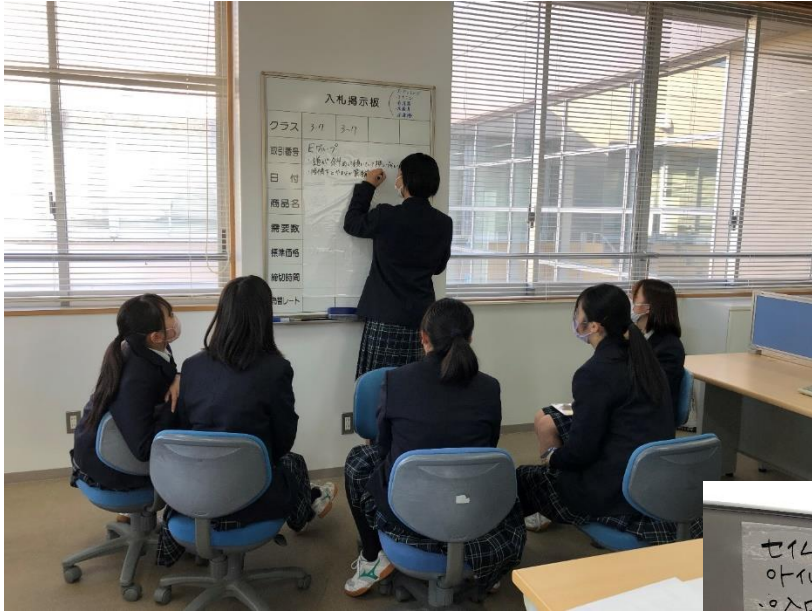
実施の様子・・・実証実験



実施の様子・・・実証実験



話し合い、まとめの様子



各グループごとの発表の様子



講師よりまとめ



実施してみても気づき

- 車いす利用者の当事者の視点になって初めてわかったこと
- 健常者の立場で進められているバリアフリー
- バリアフリー化よりもユニバーサル化
- 公共施設のユニバーサル化の必要性
- インプット、アウトプットが実践できる取り組み
- グループ学習、課題解決、インクルーシブの学びができる
- 学校外の世代間交流ができる取り組み
- 自分たちでも障がい者支援は様々な形式でできる

改善点

- 実験用車いすの確保➡必ずしも実施校で確保はできない
- 車いすの使い方指導
- マップ上のポイントとなる店舗への依頼の在り方
 - ➡実施校担当者が行うことの負担、依頼文書の雛型
- 授業の時間は意外に短い 対面で説明する情報量の精選
- 引率者の確保
- 雨天時の対応

今後の要望

- 実証➡課題発見➡【課題解決策を考え・発表する機会、その実現に繋げていく機会】を創造できないか
- すぐには解決できなくても、児童生徒がその解決策の実現が夢や希望となれるように➡未来を支える人材育成に
- 「誰かが解決してくれる」⇒「自分が解決するのだ」という志を育む場が必要
- 実証実験の取組みについて、公共交通機関に協力を求めている
だきたい
- 障がいそのものの理解の深化、バリアフリーの在り方、共生社会の創造に、『当事者の声を反映されているか』を見える化